

【るもい農業情報広場】

令和2年7月1日 R2-7月号

今月の技術対策 (園芸編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 0164-62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp

【メロン】

1. 無加温半促成作型

着果標識を目安に、着果後日数、結果枝の葉や果実外観の変化、試し切りによる糖度を確認し、品種の特性に合わせた適期収穫を行いましょ。う。

夜温が高くなりすぎないように管理し、夜温15℃以上ではハウスを開放するなど十分な換気を行いましょ。う。

【ミニトマト】

1. 温度管理

各作型とも、今後気温の上昇とともに花落ち、がく枯れ等や尻腐れ果の発生が懸念されるため、ハウス内の気温やかん水管理等に留意してください。

7月上旬から9月上旬までは、最低気温が13℃を上回るようになるので、曇雨天時を含めたハウスの開放によって、高温、多湿による草勢の低下、障害果、病害の抑制に努めましょ。う。

2. かん水

第3花房開花期以降（6月以降）は、生育量の増大、着果数の増加、気温の上昇によりかん水量が多くなる時期です。この時期のかん水量の不足は、草勢低下、グリーンゼリー果等の障害果発生につながるため、1.5～2L/株(900～1200L/100坪)を目安にかん水を行いましょ。う。

3. 追肥

追肥量は各花房開花期間毎(10日間)に窒素2kg/10aが目安となります。また、過去にカリ欠乏による葉先枯れ症状が発生しているハウスでは、カリ成分の高い肥料を使用ましょ。う。



写真 カリ欠乏による葉先枯れ症状

【かぼちゃ】

1. トンネル早熟作型

低節位の果実は変形果や小果になりやすいため、8節以降に着果させましょう。8節以内の雌花はつぼみのうちに取り除きましょう。

2. 露地マルチ作型

露地マルチ栽培（移植・直播）では、開花から着果期を迎えるため、虫媒受粉（ミツバチ利用）に留意し、低温や多雨などの天候不順時には午前中に人工交配を行い着果を安定させましょう。

3. 病害虫防除

連作ほ場で、**果実斑点細菌病（突起果、右図）**の発生が懸念される場合は、1番果着蕾期（開花7日前）以降から7～10日間隔で

- ・銅（水酸化第二銅）水和剤DF（銅30%）2000倍、
- ・銅（塩基性硫酸銅）水和剤（銅32%）500倍、
- ・硫黄・銅水和剤500倍

のいずれかの薬剤を、2～3回茎葉に散布しましょう。ただし、1番果着果期前に発病を認めた場合には、速やかに薬剤散布を開始しましょう。



写真 果皮の突起

【アスパラガス】

1. 露地作型

支柱やテープなどを用いて必ず倒伏防止対策を行い、斑点病、茎枯病などの防除に努め、光合成による養分転流を高めましょう。

2. 病害虫防除

(1) ツマグロアオカスミカメ

幼虫や被害を確認したら茎葉散布による薬剤防除を行いましょう。

(2) 斑点病、茎枯病防除

被害を軽減させるためには、早期の防除が重要です。初発を確認次第、防除を行ってください。



写真 ツマグロアオカスミカメ

農薬の適正使用・生産履歴の記帳を忘れずに！

～農作業安全・無理な作業を控えて適度な休憩、休息をとりましょう～

平成31年1月より**“収入保険制度”**が始まっています！

詳しくは、お近くの農業共済組合へお問い合わせください。